



鴻臚館CG復元モデル(福岡市)



福岡地域戦略推進協議会

# Fukuoka Growth

福岡の成長ポテンシャル

## 10 おもてなしのグローバルMICE戦略

(Version 1.2)

公益財団法人 福岡アジア都市研究所  
情報戦略室  
後藤 太一  
畠山 尚久  
山田 美里



写真：日本学術会議（第32回国際泌尿器科学会総会・福岡市）

MICEとは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことで、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。

MICEの中でも世界トップクラスの注目度と参加国を誇るオリンピック。2020年の開催都市が東京に決まり、これまで以上に、世界の目が日本に向けられます。

「O・MO・TE・NA・SHI（おもてなし）」という言葉が注目されましたが、MICEは地域の国際的な交流を促進するだけでなく、産業の振興に大きく寄与することから、世界の都市がMICEの誘致に力を入れています。来訪者の消費による経済的な波及効果やビジネスチャンスの拡大など、大きな開催効果が地域にもたらされるからです。

多様なMICEが開催され、より多くの海外からの来訪者を増やすことが、その効果を大きくします。

幅広い市民らの参加を募る、集客力のあるイベントも効果的ですが、分野を特化した一般には馴染みの薄いものでも、世界には常にイノベーションやビジネスチャンスを求める専門家や事業者が大勢いて、有益性の高いコンベンションには積極的に参加します。

一過性のイベントに終わらず、地域経済、産業、教育分野などに、可視不可視を問わずさまざまな効果をもたらす国際的なMICEの誘致を強化しなければなりません。

福岡市は、日本政府観光局基準の国際会議件数において、年間221件（2011年）と東京に次ぐ国内第2位の件数を誇ります。一方で、福岡市の国際会議は、比較的中小規模のものが多く、国際的な基準でみると存在感は高くなく、規模や外国人参加者数などに課題は残ります。

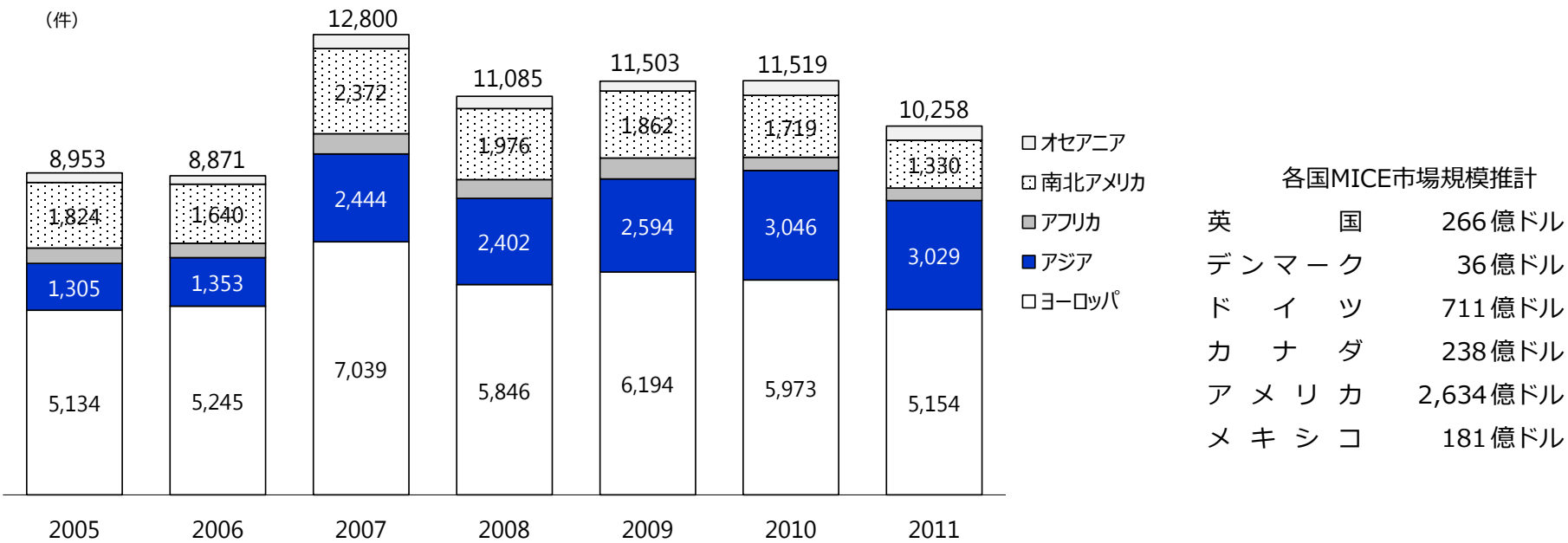
アジア各国・都市がMICE戦略を重要政策と位置付け、強化する中で、世界の中の日本、日本の中の福岡市として、グローバルなMICE戦略を実行していかなければなりません。

ネットワーキングやビジネスマッチングなど、海外の参加者にとって有益なMICEを開催するために、国際的な誘致強化とともに、国内における人材やビジネスのネットワーキング環境を整えることが、海外に対する「おもてなし」にもなります。

都市の魅力を訴求するだけでなく、国際機関・国際団体との関係強化や産業界、大学等との密接な連携のもとに、国際会議開催の豊富な経験と実績をいかし、他の都市にない強みをいかした施策を強化していくことが重要です。

（情報戦略室 畠山 尚久）

世界の国際会議件数推移【地域別】

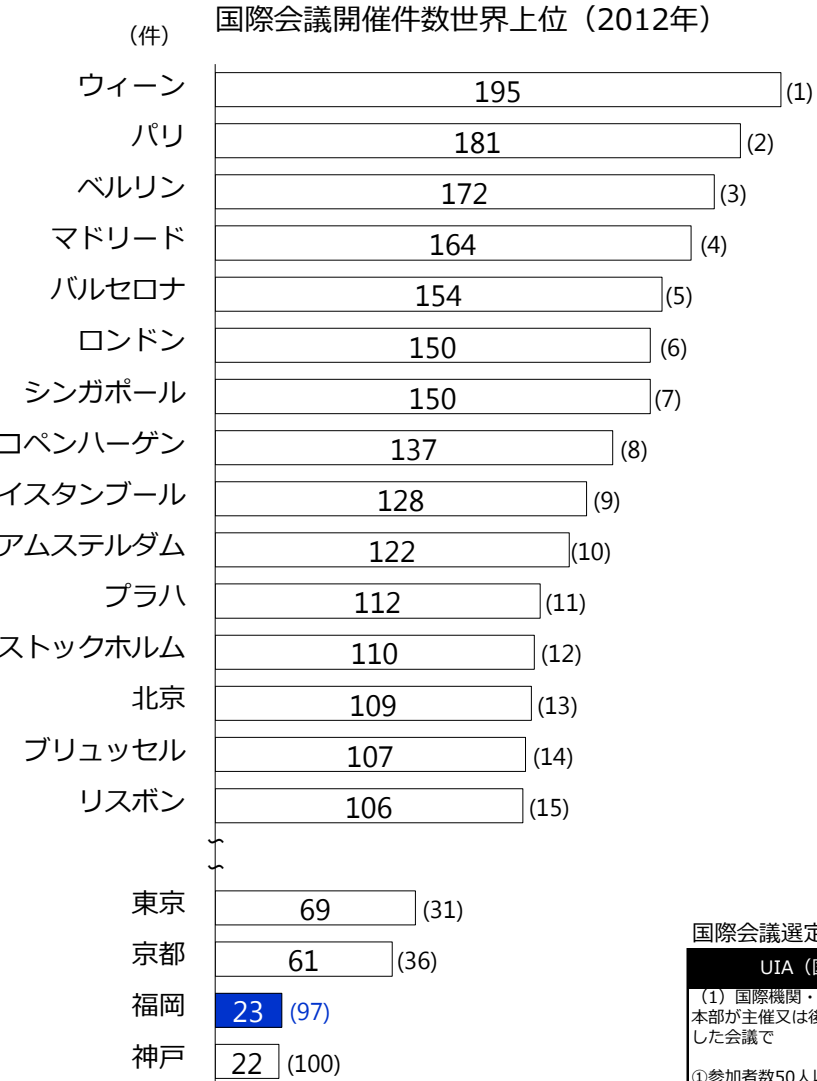


「MICE」は、多くの国・都市で、重要な成長産業として位置付けられています。経済波及効果の範囲と額が大きく見込まれるためです。来訪する人の消費、主催者や関連事業者の事業費、その他を通じて開催地域に大きな付加価値をもたらします。

このほか、MICEの開催によって、ビジネス機会やイノベーションの創出、都市競争力・ブランド力の向上、ナレッジの共有によるビジネス・研究環境や教育・人材育成環境の向上などの効果も期待されます。

日本においても、MICEの国際競争力強化を図るために、アジアNo.1の国際会議開催国を目指して（観光庁）、さまざまな取り組みが始まっています。

出典: Union of International Associations  
MICE国際競争力強化委員会「MICEの意義及びマーケットの動向」(観光庁)  
市場規模推計  
アメリカ: The Economic Significance of Meetings to the U.S. Economy (CIC 2011.2), メキシコ: The Economic Significance of Meetings in Mexico (ESTUR 2011.11), ドイツ: Meeting& EventBarometer Germany 2012 (EVVC 他2012.5)  
イギリス: eventia プレスリリース (eventia 2011.7.20), カナダ: Canadian Economic Impact Study (MPI 2009.11), デンマーク: The Economic Contribution of Meeting Activity in Denmark (Visit Denmark 2012.5)より作成  
\* 各国で計測方法、対象が異なるため、一概に横比較できない点に注意  
アメリカカナダメキシコデンマーク様々な主体の調査よりMICE開催に伴い発生する各種費用(宿泊、交通、飲食、会場使用料、その他イベント)を含む値  
イギリス、ドイツ: 会議場、イベント会場のみへの調査により把握した値



国際会議は、比較的狭いエリアに多くの国が集まるヨーロッパ地域での開催件数が多くなっています（ICCA基準）。アジアでは唯一北京が100件を超えていますが、日本は東京の69件が最高で、福岡市は23件で、海外と比較すると少ない状況です。

※「国際会議」には機関によって定義が異なることに注意（下表）

国際会議選定基準

| UIA（国際団体連合）国際会議統計基準                                                                                       |                                                           | ICCA(国際会議協会) 基準                                                                                                | 日本政府観光局（JNTO）国際会議統計基準                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 国際機関・国際団体の本部が主催又は後援した会議で                                                                              | (2) 国内団体もしくは国際団体支部等が主催した会議で                               | (1)参加者総数50名以上<br>(2)定期的に開催される<br>(3)3カ国以上での持ち回りあり                                                              | 国際機関・国際団体（各国支部を含む）又は国家機関・国内団体（各々の定義が明確でないため民間企業以外は全て）が主催する会議で                        |
| ①参加者数50人以上<br>②参加国数3か国以上<br>③開催期間1日以上                                                                     | ①参加者数300人以上（うち40%以上が主催国以外の参加者）<br>②参加国数5か国以上<br>③開催期間3日以上 |                                                                                                                | ①参加者総数が50名以上<br>②参加国が日本を含む3か国以上<br>③開催期間が1日以上<br>（企業内会議、研究機関が行う講義、投資・観光セミナー、研修会等は除外） |
| ※UIA：1907年にベルギー・ブリュッセルにおいて設立された非営利・非政府の団体6万を超える組織団体等に関わる情報の調査・収集・分析を行っており、その一環として、国際会議統計（UIA統計）を6月に発表している |                                                           | ICCA（国際会議協会）とは、アムステルダムに本部を置く国際機関で、国際会議の開催状況を収集・発信している<br>世界に1005会員を有し、構成はビューローやPCO、施設など多岐にわたる<br>2013年福岡市で会員参加 |                                                                                      |

資料:「国際会議開催統計2012」(ICCA)都市名の( )内は世界での順位  
※ICCA会員都市申告に基づく統計(右表参照)

10万㎡超が世界コンベンション施設のトレンド（国内ゼロ）

展示面積10万㎡超コンベンション施設件数 (件)

| 地域      | 件数 | 地域     | 件数 |
|---------|----|--------|----|
| 欧州      | 33 | アジア    | 11 |
| イタリ     | 7  | 韓      | 1  |
| 英       | 1  | シンガポール | 1  |
| クロアチア   | 1  | タイ     | 1  |
| スイス     | 2  | 台湾     | 1  |
| スペイン    | 3  | 中国     | 7  |
| チェコ     | 2  | 日本     | 0  |
| デンマーク   | 2  | 中東     | 4  |
| ドイツ     | 9  | UAE    | 2  |
| フランス    | 3  | イラン    | 1  |
| ポーランド   | 1  | ヨルダン   | 1  |
| ポルトガル   | 2  | オセアニア  | 1  |
| 北米      | 6  | 豪州     | 1  |
| カナダ     | 1  | ロシアCIS | 1  |
| 米国      | 5  | ロシア    | 1  |
| 中南米     | 3  | アフリカ   | 1  |
| エルサルバドル | 1  | ジンバブエ  | 1  |
| ブラジル    | 1  | 合計     | 60 |
| メキシコ    | 1  |        |    |

国内主要コンベンション施設概要

| 施設                | 展示面積<br>合計 (㎡) | 最大会議場の<br>収容人員(人) |
|-------------------|----------------|-------------------|
| 東京ビッグサイト          | 80,660         | 1,000             |
| 幕張メッセ             | 75,000         | 1,600             |
| インテックス大阪          | 70,000         | 294               |
| 名古屋市国際展示場         | 35,000         | 700               |
| パシフィコ横浜           | 20,000         | 5,002             |
| 西日本総合展示場/北九州国際会議場 | 16,907         | 585               |
| 東京国際フォーラム         | 5,000          | 5,012             |
| 国立京都国際会館          | 3,000          | 1,840             |
| 福岡マリンメッセ福岡        | 10,351         | 500               |
| 福岡国際センター          | 5,052          |                   |
| 福岡国際会議場           | 2,700          | 3,000             |
| 福岡サンパレス           |                | 2,316             |
| 福岡ヤフオク！ドーム        | 13,500         | 120               |
| ヒルトン福岡シーホーク       | 2,440          | 3,200             |
| アクロス福岡            | 700            | 900               |

各国とも、コンベンション施設の最低ラインとも言われる10万㎡を超える大規模なコンベンション施設を有しています。

国際会議は、ヨーロッパ中心からアジアへと移行しつつあり、中国やシンガポール、韓国なども大規模な展示施設が増えています。日本は、10万㎡を超える展示場はまだありません。最大の東京ビッグサイトでも8万㎡あまりです。

アジアで増え続けるコンベンション需要に対応するために、日本も、戦略的な受け入れ体制の整備を急ぐ必要があります。

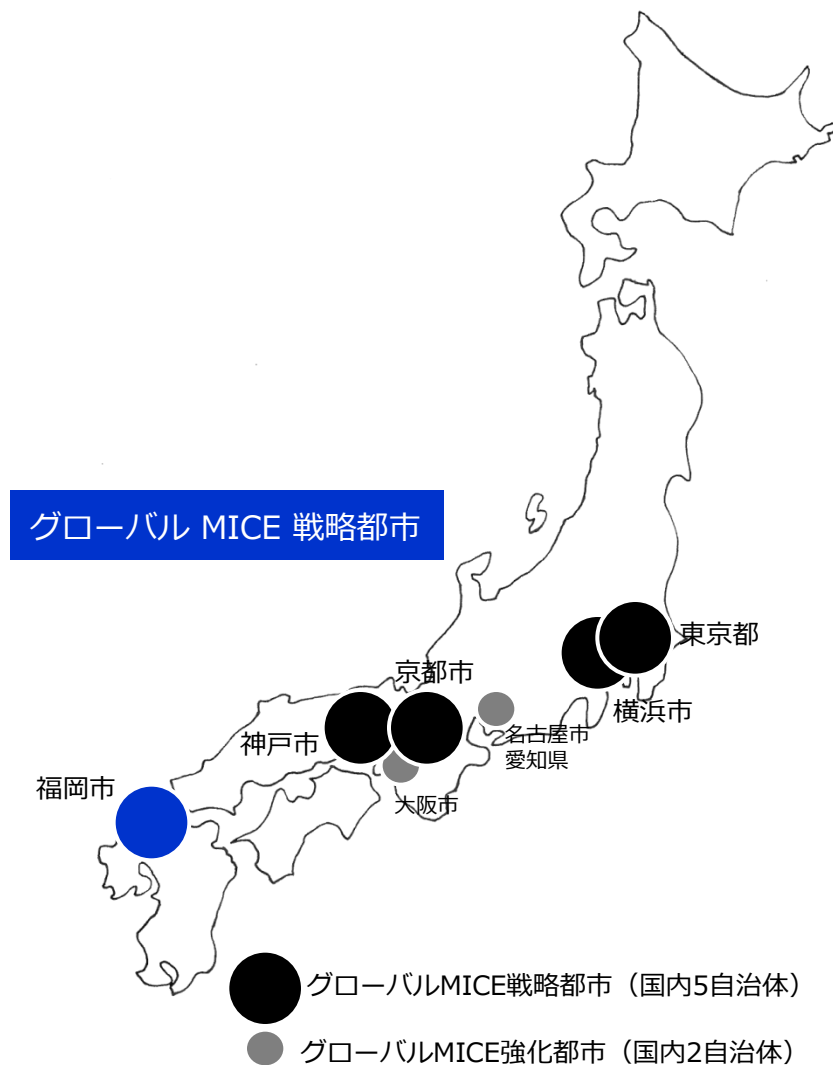
資料: 日本貿易振興機構・世界の展示会場\*面積表示があるもののみ集計  
各施設公表値ほか

福岡市は、日本の「グローバルMICE戦略都市」に選ばれました。国内で5都市のみで、地方都市では唯一の選定です。

「グローバルMICE戦略都市」は、MICEの誘致において、海外競合国・都市に打ち勝つ実力ある都市を育成するために、国が集中的な支援を行うとともに、都市の自立的な取り組みを促すとしています。

これら5都市には、国際的なMICE戦略を展開する上での優位性があると認められたものです。言い換えれば、国から大きな期待を寄せられている都市です。

福岡市は、成長著しいアジアとのクロスロードとしての地理的特性やコンパクトで良好な都市環境、海外交流の歴史的な強みなどを、誘致にいかしていく必要があります。





# 外交、交渉、そして「おもてなし」都市としての歴史

福岡は、1300年以上前から、海外の要人らを迎え、‘おもてなし’する「コンベンション都市」でした。

福岡市で遺構が確認された「鴻臚館」は、外国からの使節らを迎える大宰府政庁の迎賓館兼宿泊所として機能しました。鴻臚館のあった現在の福岡市の舞鶴公園から太宰府市まで、幅員10mにもなる一直線の官道が十数km続く、壮大な「外交ルート」でした。そして、鴻臚館は、外国の通商に携わる人にも活用されていたようです。

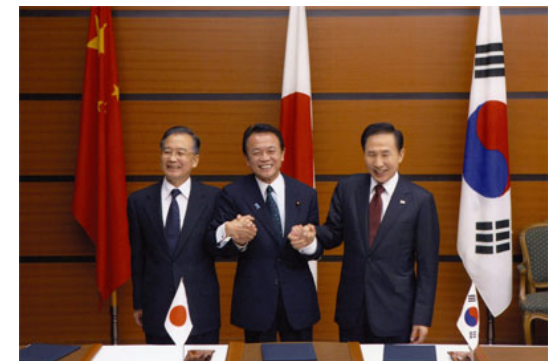
時を経て現代、日中韓首脳会談の記念すべき第1回は、やはり福岡・太宰府の地で行われました。

福岡市は、古くから外交や外国貿易の拠点として、多くの会議や交渉、情報交換が行われてきた「コンベンション都市」としての歴史があり、おもてなしの文化が根付いています。今も、福岡市の港エリアにはコンベンション施設が集積し、国内外から多くの人を訪れています。

「グローバルMICE戦略都市」として、港エリアを中心とするコンベンション施設や、都心部などでの「アフターコンベンション」の機能や魅力を充実して、福岡市のアイデンティティを未来に受け継いでいかねばなりません。



写真：一般財団法人福岡コンベンションセンターリ



2008年第1回日中韓首脳会議  
福岡・太宰府(写真:内閣広報室)

# MICEの数値目標を掲げて、国際的な誘致競争に参入：福岡市

**MICEによる直接消費額 1,000 億円増へ**

○国際会議開催数      221 回(2011)    →      250 回

○参加者数              約 9 万人(2011)    →      12 万人

○参加個人消費＋主催者消費額              →      1,000 億円増



MICEに関する国・地域の数値目標例

|                        |                                                                                               |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 韓 国                    | 参加者数65万人→318万人（2018年）<br>経済波及効果GDP1.5%（2018年）                                                 |
| 豪 州                    | 参加者支出79億ドル→160億ドル（2020年）                                                                      |
| コペンハーゲン<br>（デンマーク）     | ビッド参加数120<br>誘致成功件数60<br>ホテル宿泊数                                                               |
| オ ー ラ ン ド<br>（ア メ リ カ） | M I C E 宿泊客数を2012年⇒2014年で年2%成長<br>M I C E 宿泊客数の国内シェアを2014年に3.2%に<br>M I C E 客による消費額を約2.1億ドル拡大 |
| 福 岡 市                  | 国際会議開催件数221→250件（2022年）<br>国内コンベンション誘致件数138件→160件（2022年度）<br>直接消費増1000億円                      |

福岡市は、MICEによる直接消費額（参加者個人消費＋主催者消費）の1000億円増を目標として、2022年度目標に、コンベンションの誘致に取り組んでいます。

「グローバルMICE戦略都市」は、MICE誘致の日本代表でもあります。各国・都市とも、目標数値を掲げ、さまざまな施策を展開し、民間から誘致専門職員を配するなど、競合環境は厳しくなっていますが、福岡市は、歴史と環境を強みとしながら、「おもてなし」都市（福岡観光・集客戦略2013）として、誘致施策、体制の整備を進めることが重要です。



# 戦略重点分野を中心に、強みをいかして誘致

世界の各都市は、大規模コンベンションの誘致などに積極的です。優遇策を設けるなどして、優位性を発揮しようとしています。同時に、戦略的に都市の強みをいかせる分野に注力するところも多いようです。

福岡市も、クリエイティブ産業、ヘルスケアなどの、企業や教育・研究機関の集積がみられる分野や、九州全体で強みを発揮できる食分野など、重点分野を中心に、MICEの誘致に取り組んでいます。

## MICEに関する国・地域の施策例

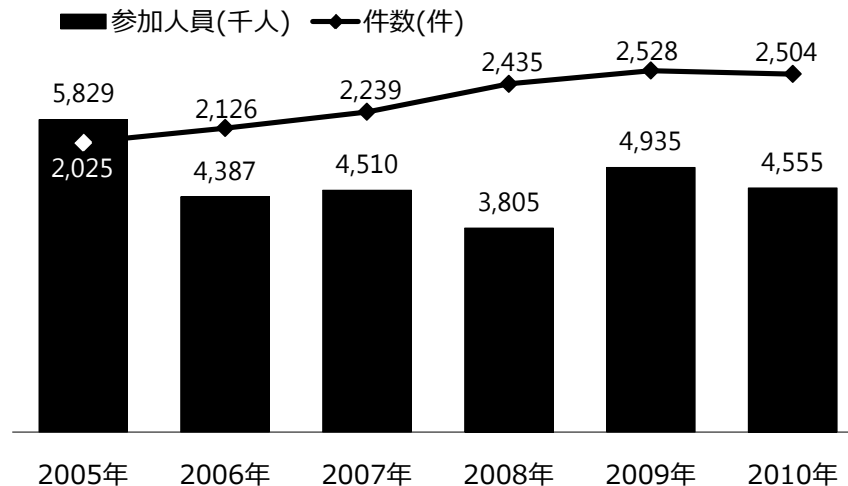
|                    |                                                                                                        |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| シンガポール             | MICE開催支援金<br>海外関係者出入国手続き簡素化<br>金融・ヘルスケア・環境等分野注力                                                        |
| シドニー<br>(豪州)       | FAMトリップ開催<br>世界6都市提携ネットワーク化<br>グリーン・ツーリズム・デジタル・土業、製造業等分野注力                                             |
| ソウル<br>(韓国)        | 開催支援金増額最大2億₩/件<br>自然・資源分野等に注力<br>CVB職員を外向からヘッドハンティングによる専門職のプロパー正職員化                                    |
| コペンハーゲン<br>(デンマーク) | 地元大学教授、医師等をアンバサダーとして特定分野誘致<br>3年毎戦略更新、アクションプラン毎年作成<br>医療、生命科学、IT、グリーン等注力<br>CVBは専門分野の職員がローテーションなく長期に担当 |
| オスロ<br>(ノルウェー)     | CVBを市主体から地元産業界へ（150社が株主・CEOは地元ホテルから）<br>運営資金は市、企業拠出と自社事業利益より                                           |
| 福岡市                | 助成金（条件あり・審査による）<br>開催資金貸付（条件あり・審査による）<br>釜山市と観光コンベンション連携情報交換等<br>クリエイティブ、ヘルスケア、食分野重点                   |

福岡市の戦略重点分野

- クリエイティブ
- ヘルスケア
- 食など

資料：観光庁・福岡市コンベンションビューロー

福岡市のコンベンション開催件数と参加人数（実績）



既に、福岡市には豊富なコンベンションの実績があります。毎年2000件以上のコンベンションが開催され、500万人前後の参加があります。

国際的なスポーツ大会実績も多く、来る12月には全世界注目の「ISU グランプリファイナル 国際フィギュアスケート競技大会2013」も、福岡市の「マリンメッセ福岡」で開かれます。

こうした実績の積み重ねが、福岡市の世界での認知度を上げ、さらなるコンベンションの開催につながります。



Grand Prix of Figure Skating Final®  
2013 FUKUOKA

Copyright (c) 2013 Japan Skating Federation. All rights reserved.

国際フィギュアスケートグランプリファイナル  
ISU Grand Prix of Figure Skating Final® 2013/14  
『ISU グランプリファイナル 国際フィギュアスケート競技大会2013』  
日程:2013年12月5日(木)～12月8日(日)  
会場:マリンメッセ福岡

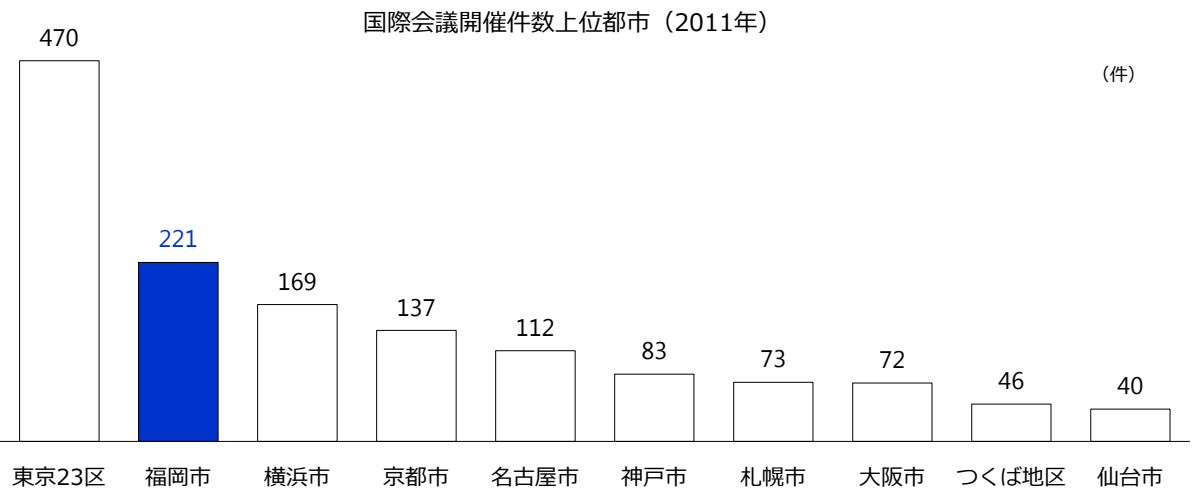
主催:国際スケート連盟 (ISU) 主管公益財団法人 日本スケート連盟  
特別後援:福岡県、福岡市、テレビ朝日 後援:九州朝日放送、西日本新聞社  
協力:福岡県スケート連盟

Official ISU Sponsors

アコム airweave Canon CITIZEN. GUINOT IHI ジャパネットたかた

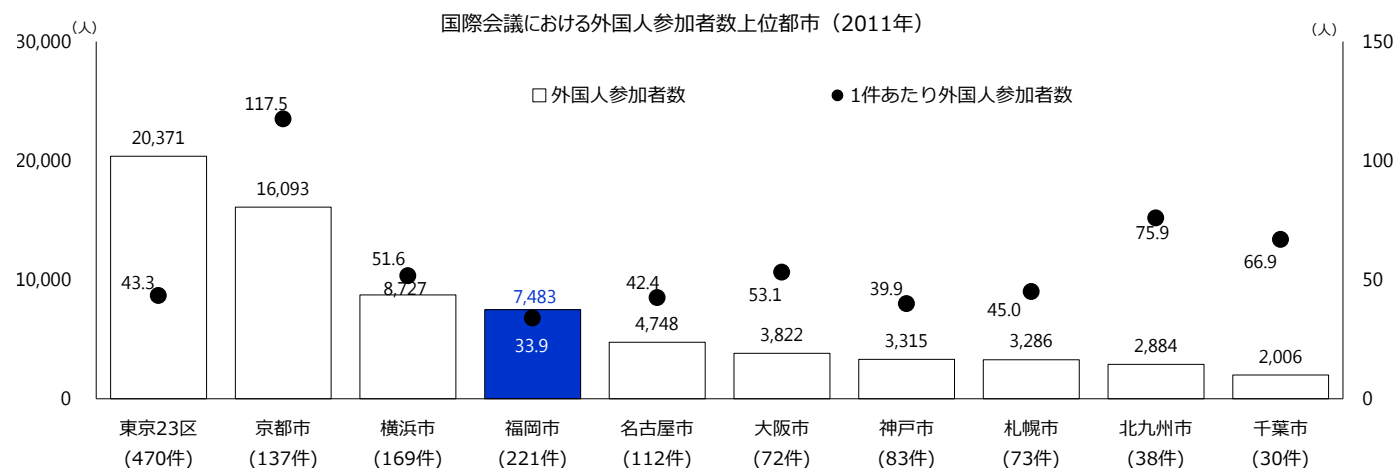
木下グループ KOSÉ MARUHAN MARY COHR sato 住友生命

# 東京に次ぐ国際会議開催件数



福岡市は、国際会議（日本政府観光局基準）の開催件数において、国内で東京に次ぐ都市です。

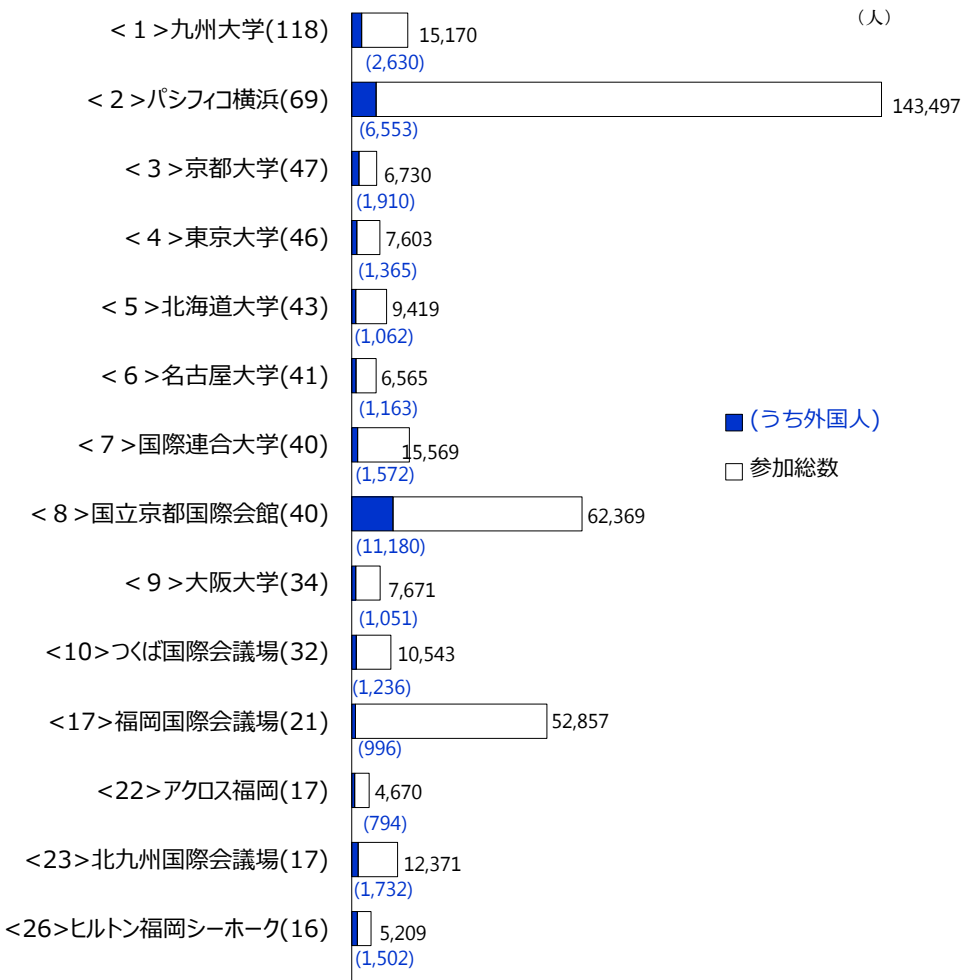
一方、参加者数は、東京や京都市などと比較すると少なく、特に外国人比率を高めることが、今後の課題といえます。



資料:「国際会議統計」(日本政府観光局)

# 大学での開催件数が都市全体に影響

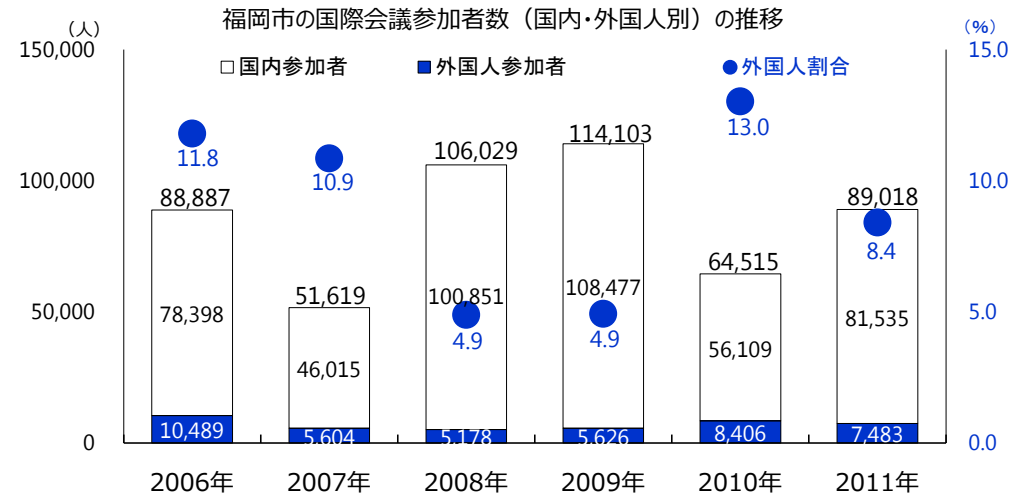
国際会議開催件数上位施設及び九州内施設（10件以上・2011年）



国際会議の開催施設は、福岡市にある九州大学が日本で最も多くなっています。このほか件数上位は大学が多くみられます。福岡市では、コンベンション施設や民間ホテルなども健闘しています

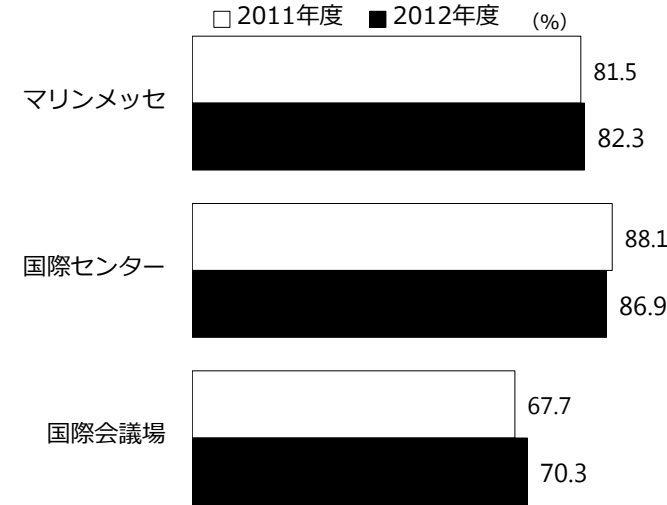
# 内容で左右する参加者数と外国人比率

参加者数や外国人参加者は、その年の会議の内容などによっても左右されますが、コンベンション都市としての存在感を高めるためにも、外国人の参加が多く見込まれる会議を誘致することが重要です。

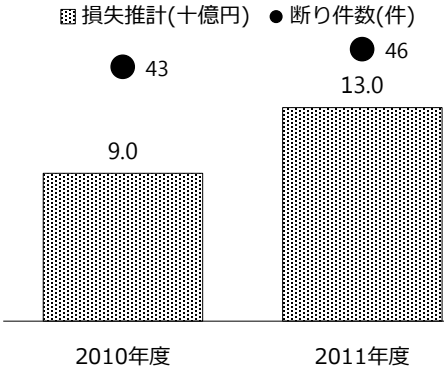


# 福岡市でもさらなる市場拡大の余地

福岡市主要コンベンション施設稼働率



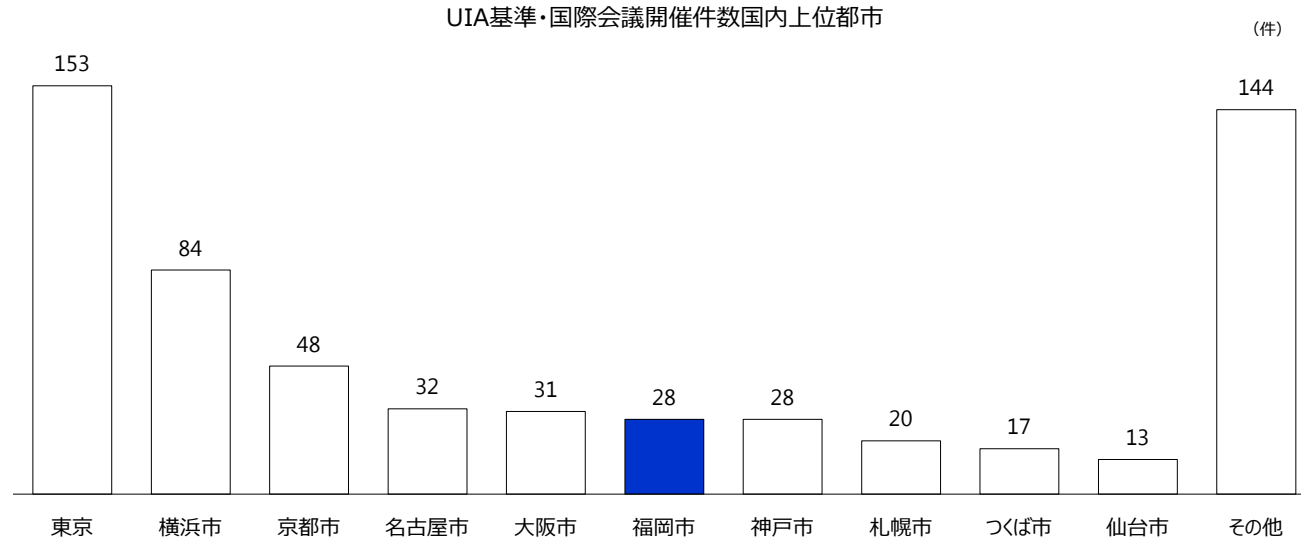
マリンメッセ・福岡国際センターお断り状況



福岡市の主要コンベンション施設の稼働率は、既に飽和状態に近く、実際に日程都合がつかないなどの理由で使用断念に至るケースも少なくありません。



# 世界で存在感を示すには、大規模・国際基準の会議が今後の課題



国際基準の国際会議件数では、東京、横浜市、京都市などと比較して少なく、「グローバルMICE戦略都市」として、世界的な会議の誘致は強化していかなければなりません。

誘致において世界と伍するためには、福岡市に留まらず、さらに多様な強みを持つ九州全体での連携などの取り組みも必要です。

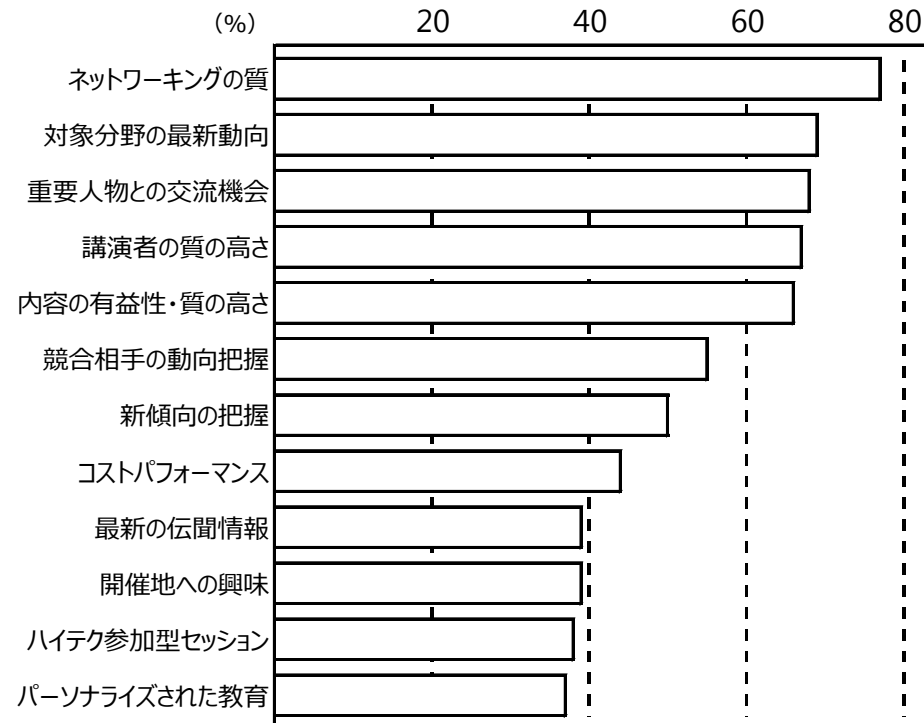
# 世界が求めるのはネットワーキングとビジネスチャンス

Fast FUTURE社の発表しているMICE産業の将来動向分析レポート（“Convention 2020”）では、世界の顧客が、2020年において会議及び展示会へ出席を決定する際に影響を与える要因として、よりビジネスに直結する形での開催、有益性を重視する傾向にあります。

開催都市の魅力は重要な要件ではありますが、コンベンションの質という側面から、一過性のイベントで終わらせずに、商談やネットワーキングの輪が広がるような、その分野に携わる人々にとって有益性の高い会議等を開催することで、大規模コンベンションで先行する都市との競争力を高めていくことは可能です。

それが、古くから外交と国際貿易の地として栄えてきた福岡市のDNAであり、「おもてなし」です。

2020年・会議及び展示会参加決定への影響要因



# オールジャパンの魅力を福岡で。アフターコンベンションをコンパクトに満喫

国際コンベンションは、開催都市の魅力よりネットワーキングやビジネス環境を重視する傾向にあります。実際に訪れる人にとっては、開催都市とともにその「国」に対する期待感を抱いてやって来ます。

開催都市の選定にあたっては、特に地方都市にあっては、一都市だけのPRでは訴求力は十分でないため、特に欧米など遠方の地域に対しては、日本そのものの魅力を伝えることが効果的です。

そして、開催が実現すれば、訪れた人が、地域とビジネスでつながることが最も重要な成果ですが、アフターコンベンションで、地域で消費をしてもらうことが、経済的な波及効果を広げます。福岡市は、都心部にさまざまなサービスがコンパクトに集中し、日本の歴史と新しさが混在した魅力を、アフターコンベンションの限られた時間で体験することが可能である強みがあります。

このように、誘致とアフターコンベンションで、異なる訴求をしていくことが必要です。



市民の日常も「異国情緒」

国際泌尿器科学会総会で福岡市を訪れた外国人に、日本・博多の文化を味わっていただくため、寺社見学などとともに、商店街店舗での飲食の提供を行い、好評を博しました。(写真:福岡コンベンションビューロー)



これは海外主催者の作成した「福岡市」である国際学会の紹介です…。ご覧の通り、福岡市の風景とともに、福岡以外の地域の風景も使われていますが、どれも「日本」のイメージには違いありません。